

進路は人それぞれ、自分次第。

平成 29 年度卒業生 奈良教育大学大学院 教育学研究科 理科教育専修 廣瀬 晶久

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学入試という関門を乗り越え、今年の春から晴れて大学生となる、みなさんにお伝えしたいことが1つ。これから先、大学入試以上にしんどい試験はありません。なぜなら、大学院入試や就職試験、教員採用試験ではセンター試験ほど広く深く勉強する必要がないからです。センター試験で苦手な科目を泣く泣く勉強した人も、もうその呪縛から解放されるのです。よかったですね。これからは理科教育専修なら理科に関する科目といったように、専修ごとに開講される講義を受けていくこととなります。自分の得意とする科目を中心に受講することになるので、高校よりも楽しんで講義を受けられますし、「自分の得意科目なら、単位を取るなんて余裕じゃないか」と思われるかもしれません。しかし、大学というものはそんなに甘くはありません。

ここで、大学生となった私や友人が陥った大学の罠を3つ、ご紹介しましょう。1つ目は「講義に遅刻、または欠席をして単位を落とす」こと。大学生となり、バイトやサークル活動に勤しんだり、友達と遊んだり、レポートなどに追われることとなるでしょう。また、授業の内容も高度になり、ついていけなくなります。いつしか、大学の講義がめんどくさくなり、遅刻や欠席が増えていき、気付けば単位不認定になったケースはいくつもあります。これが全国の大学で一番陥りやすい罠ではないかと。実際私もそれで、取れたはずの2科目の単位を落としたことがあります。取得できなかった科目の単位が多いと留年になりますので、気を付けてください。2つ目は「思っていた大学生活と違って、そのギャップに悩む」こと。専門科目を学んだり、教養科目を学ぶにつれて「あれ、これは私の学びたい内容じゃない。思っていた学生生活じゃない」と思う人もいるでしょう。そのギャップを受け入れ難くなり、不登校になるケースがあります。幸い、私はその罠に陥りませんでした。友達が陥ってしまい不登校になりました。3つ目は「入学時にあった自分のやりたいことが変わる。就職活動時に進路を見失ってしまう」こと。最初は「学校の先生になりたいんだ！」と入學してきた学生も、講義を受けていくにつれて自分のやりたいことが変わってきたり、就職活動時に「やっぱ、学校の先生はやめよう…」と思う人もいます。私もその罠に陥りました。大学の3年生の冬のことです。当時、私は奈良教育大学ではなく、とある国公立大学の理工学部で化学科に所属していました。当然、就職先は専門を活かした分野へ…となるはずが、私はそれに納得がいかなかったのです。「化学科なのだから化学のメーカーに勤めるのが筋だろう」と周りの人からいろいろと言われました。結果、私は奈良教育大学大学院に進学を選び、多くの人から批判を浴びせられました。

長々と事例を挙げてきましたが、この3つの事例で言いたいことは何か。結局のところ「自分自身」の問題であるということです。1つ目の事例は自己管理ができていないということなので、自己管理をしっかりすれば回避できる問題です。2つ目、3つ目に関しては「自分自身」だけではなく、他のところにも要因はありますが…。とにかく「自分自身」が変われば、アクションを起こせば回避できます。2つ目、3つ目の1つの解決方法は専修を変える、別の大学に編入学をするということです。実際に聞いた事例では、書道教育専修から理科教育専修へ移籍した人、数学教育専修なのに理科の教員免許を取得した人、私みたいに理工学部から大学院で教育学へ転向する人もいます。この保健センターのページに来て、ここまでこの文章を読んでいる方は、不本意入学の人や学生生活や進路に悩んで

いる人ではないかと思います。そういう人たちに一度振り返ってほしいことがあります。周りの目、評価を気にして生きてはいませんか？本当にやりたいことを抑えて、周りの人の思う理想の生き方に振り回されていませんか？奈良教育大学に入学したから先生にならなければならないと思っていませんか？そんなことはありません。自分のやりたいことを大学生のうちに見出してください。なぜなら、就職した後に気付いては手遅れになることが多いからです。就職した後も強い意志のある人であればやり直すことができますが、そのケースはあまり聞きません。途中で諦めてしまうからです。まだ自由に動ける大学生が最後のチャンスなのです。だから、今のうちに自分を見つめ直してみてください。一人で見つめ直すことが難しいと感じたら、保健センターの看護師の方々、先生方に相談してみてください。自分を見つめ直す力になってくれますよ。ただ、気を付けてほしいのは、答えを出すのは「自分自身」だということです。そこは間違えないでくださいね。この文章をここまで読んでくださった人に、ウォルト・ディズニーの言葉を贈りたいと思います。

The flower that blooms in adversity is the rarest and most beautiful of all.

(逆境の中で咲く花は、どの花よりも貴重で美しい。)

最後になりましたが、奈良教育大学大学院での学生生活をおくるにあたり、お世話になりました研究室の山崎先生ならびに研究室のメンバー、保健センターの辻井先生、藤林さん、松岡さん、そして大学の教職員みなさまにこの場をお借りして、御礼申し上げます。ありがとうございました。